

キャプテンの役割が人格形成に及ぼす影響

白澤 駿 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：キャプテン, 人格形成, リーダーシップ

1. 緒言

世間一般的にキャプテンという役割を自らやろうという人は少ないと考えられる。その理由は、チームの事やチームメイトの事など人のことを常に最優先に考えて行動しないといけないし自分のことだけを考えていけば良いというわけにはいかないからだと考えられる。

そして疑問に思ったのは、キャプテンはどんな役割をチームでやらないといけないのか、監督からどんなことを求められるのだろうか。そしてそれらの役割を全うすることによって人としても、選手としても成長し人格形成の部分に変化は見られるのだろうかというところであった。そこで本研究ではキャプテンという役割がもたらす影響やそれがどのように人格形成に繋がっていくかなどを研究することを目的とした。

2. 研究方法

アンケートを作成し、本学大学生の高校および大学キャプテン経験者 30 人を対象に、キャプテンの役割について・人格形成についてのアンケート調査を行い、キャプテンの役割について必要だと考えられる項目を抽出した。それをもとに、「世界王者のリーダー論」(2012. ビジヤレホ)の本で述べてあるキャプテンの役割と比較しキャプテンの役割とは何か明確にした。

3. 結果と考察

アンケート調査の結果、本学のキャプテン経験者 30 名の半数以上はキャプテンの役割に対して理想が高すぎるあまり、その役割を頭で考えて行動を起こしてはいるが、自分の事も優先してしまっており、キャプテンの役割も疎かに

して、何もかもがうまくいかなくなっていた。結局キャプテンの役割も、自分のことも中途半端になってしまっていて、チームをまとめることができなくなり実際に行動を起こすことが出来ず人格形成に対して行動力は繋がらなかった人がいたことが明らかになった。しかしもう半分の方はキャプテンの役割に対して全力で取り組み、自分のことよりもチームのことを優先に考えて行動を起こしていて、それがプラスに繋がり自分の事もキャプテンの役割としても効率よく行うことができていることが明らかになった。そしてキャプテンに対して良い印象を持ち、またチャレンジしたいなど人格形成にも良い影響を与えていることが考えられる。

4. 結論

アンケート調査の結果からキャプテンという役割はネガティブな要因が多いことが明らかになった。今後スペイン代表のようにチーム内でリーダーシップがとれるキャプテンが何人も現れてくるような育成を日本全体がしていくことで世界と肩を並べ、キャプテンという役割は良い印象を持たせるのではないかと考えられる。

5. 引用参考文献

- 1) ルイス・ビジヤレホ (2012) 世界王者のリーダー論
- 2) 蔦川 譲 (1984) ラグビーにおけるキャプテンシーについての研究